

第一九八回ペン川柳会

令和二年十一月二十三日

お題「落」

■ 細谷 (損得)  
そんとく

落書きを億円かけて落札し  
落ち武者が票を数えて何千里

■ 西川 (酔雅)  
すいが

呆け進み落とした物もすぐ忘れ  
落とし物呆けて何だかすぐ忘れ

■ 浜田 (我々好)  
ウイスキー

マスク美女落としてみたら獅子っ鼻  
こんな句が入選だとは洒落くせえ

■ 松谷 (零門)  
れいもん

落とし物妻は目方でオレ財布  
ノーボギー落雷中止泡と消え

■ 塚田 (拿々)  
だだ

落ち目でもオレより辛い妻元氣  
落語会落ちが分からず苦笑い

■ 三春 (火酒)  
ウオツカ

老いてなお落第の夢震度四  
願掛けの星は落ちてもツキ落ちず

■ 安藤 (晃二)  
てるつぐ

落雁は干菓子に非ず池に降り  
水落ちて竹の快音鹿威し

■ 稲宮 (井波) いなみ

G A F A 誇る飛ぶ鳥落すーTカ  
是非落せ大間まぐるだご祝儀だ

世話人 塚田 實 (拿々) だだ

■ 曾山 (酪帝) めいてい

失敗を糧にしないで落ちこぼれ  
戦時中落穂拾って飢えしのぐ

■ 八木 (明迷) めいめい

邁進に落日招き都構想  
ハンカチを落とす女性は絶滅種

■ 山縣 (安兵衛) やすべえ

落葉舞う冬にコロナの不況風  
落研や落第覚悟の落ちづくり